

令和7年度 富山市ガラス美術館協議会 協議要旨

日 時：令和7年8月1日（金）14：30～16：00

場 所：ガラス美術館6階レクチャールーム

出席者：協議会委員（敬称略）4名

秋元雄史（会長）、石田敬真、外館和子、浪瀬佳子

ガラス美術館 11名

伊東名誉館長、土田館長、北村副館長、石黒次長、土方館長代理、藤井係長、

渡部主査学芸員、中島主任学芸員、浅田主任学芸員、西田主任学芸員、佐々木主事

欠席者：協議会委員（敬称略）4名

池淵晃、石崎由則、唐澤昌宏、竹脇孝志

資料1 富山市ガラス美術館協議会概要等

- 1-1 富山市ガラス美術館協議会の概要について
- 1-2 富山市「ガラスの街づくり」の主な取組みについて
- 1-3 富山市ガラス美術館企画展について
- 1-4 富山市ガラス美術館基本方針

資料2 令和6年度富山市ガラス美術館事業実績等……………議事（1）

- 2-1 令和6年度富山市ガラス美術館の当初予算額及び決算額について
- 2-2 令和6年度富山市ガラス美術館の主要事業について
- 2-3 令和6年度TOYAMAキラリ入館者数及び富山市ガラス美術館
観覧者数について
- 2-4 令和6年度富山市ガラス美術館5階ギャラリー使用実績について
- 2-5 令和6年度公益施設内関連イベント実施状況について
- 2-6 来館者アンケート集計結果

資料3 令和7年度富山市ガラス美術館事業計画等……………議事（2）

- 3-1 令和7年度富山市ガラス美術館事業一覧について
- 3-2 令和7年度富山市ガラス美術館展覧会開催スケジュールについて

参考資料

- 1 ミュージアムショップ（2階）のオリジナル商品について
- 2 カフェ（2階）メニューについて

（協議要旨）

1. 開会（司会進行：藤井係長）
2. 名誉館長挨拶
3. 館長挨拶
4. 出席者紹介
5. 議事（司会進行：秋元会長）

（1）令和6年度富山市ガラス美術館事業報告について（石黒次長から説明）

(2) 令和7年度富山市ガラス美術館事業計画について（石黒次長から説明）

6. 意見及び質疑応答

議事（1）について

（浪瀬委員）資料21ページの中に「当館独自の展示構成」とあるが、どのようなところを指しているのか。

（土田館長）当館独自の展示構成について、どこまでを独自の展示構成と言うかは正直難しいが、大平洋一氏は非常に几帳面な方で、自身が作られた帳簿やデザイン画を持っており、そうしたものも一緒に展示することによって、作品の発想の原点を知ることができるという点では、非常に面白い展示構成となったかと思う。

（浪瀬委員）子供向けの見学について、昨年はバスが手配できないことが課題だったとの説明だったが、今年の状況はいかがか。

（石黒次長）今年度もすでに実施しているところだが、貸切バスの不足で手配が困難となっているため、来年度に向けて教育委員会と調整をしながら、プログラム内容の見直しを図っている。なるべくすべての学校に参加してもらうために、実施時期や時間帯等を工夫していこうと考えている。

（浪瀬委員）外国からのお客様に対してのアンケート用紙に「何かご意見があればこちらにご記入ください。」という項目があるが、具体的にどのような意見が書かれているのか。また、NYタイムズ掲載以降、どのような変化があったか。

（土田館長）外国からのお客様からのご意見に関しては、ほとんどがお褒めの言葉となっている。一方、日本のお客様からは「監視員に注意されて不愉快だった。」「展示作品が少なく残念だった。」との意見を書かれることは時々ある。しかし、全体の9割以上は好評をいただいている。

NYタイムズ以降の変化についてだが、資料35ページを見ていただくと、令和6年度の入館者数が月別で表されており、12月時点で前年度の年間実績を上回っている。さらに今年1月にNYタイムズに掲載されて以降も順調に来館者数が伸びていることから、NYタイムズに掲載されたことで、海外からのお客様に限らず、そのニュースを知った市内の方も「一度足を運んでみよう。」というのが実状かと思う。現在もインバウンド客が毎日100名程度で、全体の15%ほどを占めており、結局は国内のお客様が増えているというのが現状。

（浪瀬委員）富山市長の出前トークを見た際に、土田館長が市長とコーニングガラス美術館を訪れた際の写真を拝見したが、何かアイデアを持ち帰られたのか。

（土田館長）元々、市長が世界銀行へのプレゼンのために訪れた際に、同じガラスに特化した美術館で学術的な協定も結んでいるコーニングガラス美術館を見学しようという話になった。この美術館には、毎年当館の学芸員を1名研修に向かわせ、コーニングの技術を学んできてもらっており、今後もより協力関係を深めたいと伝えてきた。市長に対しても手厚いおもてなしを受けたため、今後の良好な関係に良い機会となった。

（石田委員）富山市民でガラス美術館に訪れたことがない人はこれまで多かったと思う。し

かし、NYタイムズに掲載されたことによって、一度訪れてみようという人は必ず増えたと思うし、随分変わってきたなという印象。素晴らしいチャンスがめぐってきたと思うので、今後も良い企画・発信を期待している。

(外 館 委 員) とにかく富山市ガラス美術館は、都心でもない地域でこれだけ集客できるのはすごいと思う。NYタイムズ効果で増えているのは、インバウンド客だけでなく、市内のお客様というのは興味深い。メディアに取り上げられることがどれだけ重要なのかというのが分かった。コーニング美術館との連携についても素晴らしいと思った。アメリカだと他にもトレド美術館もガラス作品に力を入れているので、そのうち関係が持てれば良いなと思った。

広報も充実している印象。最近では、どの美術館でもインスタとFacebookは取り入れているが、この美術館はYouTubeにも力を入れている？

(土 田 館 長) 実は、YouTubeは今のところ広報としてはまだまだ活用できていない。講演会やアーティストトークを配信しているだけで、美術館の紹介とは違う。

議事(2)について

(外 館 委 員) 作品収集保存費にこれだけの予算が付くのは素晴らしいと思う。実績がしっかりあるからだと思う。

(秋 元 会 長) 寄贈作品の多さやクオリティの高さが素晴らしいと思う。

(石 田 委 員) 寄贈作品は、どのようなルートで来るのか。

(土 田 館 長) 寄贈が増えたのはここ3年程。一番多いパターンは、展覧会に出品された方がそのまま寄贈というパターン。当美術館の認知度が上がってきて、このような声を頂く機会が増えたのかと思う。

(浪 瀬 委 員) 作品保存の話だと、この美術館の作品の保存場所や保存方法に興味がある。そのような普段見れないところの見学会があると楽しそう。能登半島地震の際にガラス作品が壊れたのではないかと不安に思っていたが、聞いたところ壊れないように工夫して保管してあるとのこと、とても関心を持った。また、土田館長のトークイベントなんかもあったら面白そう。

(秋 元 会 長) 10年経って館の運営は安定してきたと思うし、展覧会の作り方もガラス美術館らしさが出てきたと感じる。来館者も伸びてきているので、さらに伸びてくれることを願っている。そこで、改めて教育普及の在り方は少し考えてみる時期に来たのではないかと思う。富山のガラスの未来に向けてもう一歩踏み込んだアイデアを生み出してもらうことを期待している。

7. 閉会

(以上)